

2020年2月17日

関係者各位

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部

2020年度 競技会運営方針について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より日本ライフセービング協会（JLA）の諸事業に対しまして多大なるご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

国内におけるライフセービングスポーツの普及および競技力のレベルアップと、競技会の魅力を高めつつ、競技会運営の健全化を通じて経済的に持続可能なものとするべく、様々な改革を進めております。

今年度に引き続き、2020年度の運営方針につきまして下記の通りお知らせいたします。

敬具

記

ライフセービングスポーツの役割

様々な活動で成り立つライフセービングにおいて、これからの活動をさらに発展させていくために必要なライフセービングスポーツの役割を、以下の3点とします。

- ライフセーバーに求められる救助に必要な技術や体力の向上を目的とすること。
- 誰でもライフセービングを始められる活動への入口と位置付けること。
- スポーツの魅力を活用してライフセービングを広く社会へ認知させること。

各競技会における資格要件について

ライフセービングスポーツがライフセービングを始めるきっかけとなるように、資格所持要件を問わない競技会を設け、これまでの資格所持要件を必要とする競技会と分けて実施する。

- 全日本選手権大会（以下、全日本）と全日本学生選手権大会（以下、全日本学生）においては、ベーシックサーフライフセーバー資格所持を参加条件とする。
- 全日本プール競技選手権大会（以下、全日本プール）および全日本学生・プール競技選手権大会（以下、全日本学生プール）においては、プールライフガード資格かベーシックサーフライフセーバー資格所持を参加条件とする。
- 全日本と全日本プールへの高校生の参加においては、ウォーターセーフティ資格およびBLS資格の所持を要件とする。
- 全日本と全日本プールへの中学生の参加においては、ウォーターセーフティ資格の所持を要件とする。
- 全日本種目別選手権（以下、種目別）を始め、それ以外の競技会における資格所持要件は特に設けず、推奨にとどめる。

競技会でのBLSアセスメントについて

BLSアセスメントは競技ではなくルールも存在しないため、「競技」の総合結果に含めるのは適切ではない。しかしながらこのライフセービングスポーツが通常のスポーツではなくBLSのできるライフセーバーのスポーツであること、最終目的が勝つことではなくライフセーバーに求められる救助の技術や体力を高めることであることを内外に示す、象徴的かつ重要な種目であるため、これを継続するとともにより魅力的なものとしていく。

- これまで通り、競技会によってはBLSアセスメントを行なっていく。
- 評価結果を「競技」の総合結果には含まない。
- 競技会登録選手からの無作為抽出ではなく、BLSに自信のある選手にエントリーして頂き、表彰を行うことで、より質の高いBLSを目指す。

中学生の全日本および種目別への参加について

国内において中学生が参加できる競技会はまだ少ない。それを補うために特別な条件のもとに全日本および種目別への参加を認めることにより、才能ある中学生に挑戦の場を増やし、その成長のための環境を整えることを実施していく。

しかしながら大人に混じって競技に参加することは、体格に勝る大人とのコンタクトによる怪我や様々リスクが考えられる。そのため中学生のだれもが気軽に参加すべきではなく、サーフライフセービングインストラクター資格を所持するユース指導責任者(以下、ユース責任者)、その保護者、そして本人が、本人の力量を見極めた上で覚悟を持って参加するべきである。

さらには体格差、技術、体力、怪我の可能性などに少しでも不安がある場合、勇気を持って参加をとりやめるべきである。

上記の考えのもと、以下の条件において全日本および種目別への参加を認めるものとする。

【参加条件】

- ユース責任者と保護者は、参加する全てのレースに立ち会えること。
- 中学生が参加できる種目は当面、体への負担の大きいサーフスキーを使用する種目やコンタクトの多いビーチフラッグスを除く。
(サーフレース等のスイム関連種目については検討中)
- 本人の参加が、競技会進行を妨げないこと。
- 全日本ユース選手権の高校生の部で入賞を目指せる実力を持つこと。
- 競技会主催者には、主観的な判断で中学生の参加を止める権限があり、その判断に対する抗議は受け付けない。また、いかなる理由においてもエントリー費の返却はしない。

【参加方法】

- 競技会会場で立ち会うユース責任者と保護者が、参加する本人の体格・技術・体力・精神面および海のコンディションをレース毎に確認し、話し合い、参加の是非の判断を自身の責任において行う。
- その際ユース責任者は、ライフセーバーとして、またサーフライフセービング・インストラクター資格保持者として、慎重な判断を行う。
- ユース責任者と保護者の両名が免責条項を含む特別同意書へサインし、両名同席の上でこれを競技会実行委員会へ提出すること。(詳細は各競技会要項を確認)

全日本プールの方針

- ILS 承認を引き続き取得し、世界記録の申請が認められる競技会とする。
- 国際化を進め、海外からの選手を受け入れる。（オープン参加とはしない）
- 将来的にアジア太平洋チャンピオンシップの同時開催を目指す。
- 個人2種目限定の出場制限を設けず、タフな選手が育つ環境を用意する。
- 一部の種目において、タイム決勝ではなく予選と決勝を行う。
- SERC に関しては世界基準での開催と、多くの選手に出場いただくことを目指し、全日本プールではこれを行わず、別日程での単独開催を目指す。

種目別の方針

- 国際化を進め、海外からの選手を受け入れる。（オープン参加とはしない）
- 将来的にアジア太平洋チャンピオンシップの同時開催を目指す。
- 2020 年においては、ワールドマスターズゲームス 2021 関西のプレイイベントと位置付ける。

全日本予選会の方針

- 予選会は各地方ブロックでの開催・運営が実現するように進めていく。
- 各予選会名称に地方ブロックの名称を反映させる。
- 2021 年度からは、地方ブロック単位での自主開催を目指す。
- 2020 年においては、LWC2020 イタリア大会に出場する日本代表選手の予選を免除する。
- 予定された日程で予選会が実施できなかった場合、各地方ブロックは一定の期間までに、何らかの方法で本戦出場選手を選出するものとする。

全日本本戦の方針

- 国内最高峰の競技会と位置づけ、予選会で厳選された選手だけが出場できるものとする。
- 観客など競技会を観る人たちにとって、魅力のある運営を仕掛けていく。

ジュニア・ユース・マスターズ選手権大会の方針

- 今年度に引き続き、ビーチ種目とサーフ種目のカテゴリーに分けて実施することにより以下を実現する。
 - ビーチ種目とサーフ種目の両方に出場しやすくすることで、プール選手権大会と合わせてシーズン毎のマルチスポーツ化を実現し、発達期にあるジュニア・ユース世代にとってより多くの種目を体験する機会を創出する。
 - 競技会運営の採算性を向上し、競技会開催を継続できる運営体制を整える。
 - サーフスキー体験会などを企画し、ジュニア・ユース世代にとって海での楽しい体験の機会を作り、ライフセービングスポーツへ深く引き込む。
- 今年度に引き続き、ジュニア・ユース選手権大会とマスターズ選手権大会の同時開催を

実施することにより以下を実現する。

- ジュニア・ユース世代に対して、マスターズ世代の活躍を身近に感じてもらうことで生涯スポーツとして意識させる。さらには世代間交流を図る。
- ワールドマスターズゲームズ 2021 関西に向けて、マスターズ世代の参加を活発にする。
- 競技会運営のさらなる採算性の向上を図る。
- 表彰のカテゴリ区分を、「小学生」「中学生」「高校生」「マスターズ」と、4つの合計「クラブ総合」の5つのカテゴリに変更し、ビーチ・サーフ・プールそれぞれの大会において表彰する。
- チーム総合力の向上を図るために、ビーチ種目、サーフ種目、プール種目の3大会におけるポイントを合算した総合表彰を、上記5つのカテゴリ区分ごとに実施する。
- 上記に伴い3大会の名称をそれぞれ「競技会」から「選手権大会」に変更する。
- 昨年に引き続き、中学生は高校生の種目に出場できるものとする。

各大会の対象者、資格要件等一覧

競技会名称	対象者	選手登録	資格要件
全日本予選会・本戦	高校生以上 ※中学生条件付き	必要	ベーシックサーフLS 高校生：WS&BLS 中学生：WS
全日本プール	中学生以上	必要	プールLG、またはベーシックサーフLS 高校生：WS&BLS 中学生：WS
全日本学生	大学生、短大生、 専門学校生のみ	必要	ベーシックサーフLS
全日本学生プール	大学生、短大生、 専門学校生のみ	必要	プールLG、またはベーシックサーフLS
全日本ジュニア・ユース・マスターズ (ビーチ・サーフ・プール)	ジュニア：小学生 ユース：中学・高校生 マスターズ：30歳以上	必要	なし（推奨）
種目別選手権・オープンチャレンジ他	高校生以上 ※中学生条件付き	必要	なし（推奨）
SERC	高校生以上	必要	プールLG、またはベーシックサーフLS 高校生：WS&BLS 中学生：WS
認定競技会	大会によって	大会によって	主催者判断
その他の競技会	大会によって	主催者判断	主催者判断



水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会